

そよ風

- 1 看護の日のイベントの開催を終えて
- 2 平成 27 年度福祉サービス第三者評価結果
- 3 平成 28 年度看護部院内研修について
- 4 平成 28 年度 日本重症心身障害福祉協会 全国施設協議会に参加して
- 5 多摩地区施設交流会 2016
- 6 ダンスパーティ 2016
- 7 生け花教室開催
- 8 食のバリアフリー
- 9 My World
- 10 人事異動・編集後記

看護の日のイベントの開催を終えて

看護部 看護科主任 外来 酒井美智子・教育担当 濱野正幸



みなさん「看護の日」というのをご存知ですか？ 1990 年に厚生労働省により、フローレンスナイチンゲールの誕生日にちなみ「看護の日」が制定されました。

高齢化が進む中で、あたたかい心で包まれた東大和療育センターにしていくために、「看護の心」を伝え、重症心身障害児（者）施設のセンターをもっと身近に感じていただきたい。そんな思いから、今回、初めての「看護の日」イベントを 2016 年 5 月 12 日（木）に開催致しました。


看護科主任中心の 8 人での初めてのイベント主催。何をどうしたものやらと悩んでいましたが、話し合いが始まると「やるからには楽しみましょう」とあれもやりたい、こうしたらどうかとアイデアを出し合い、短い時間の中で形にすることができました。当日は、朝から晴天に恵まれてイベント日和。1 階エントランスホールで、測定コーナー、手洗い体験コーナー、栄養に関する展示コーナーの 3 箇所に分れてスタンバイ。何人くらい来てくれるのかな～とドキドキしているのもつかの間、開始時間を待っていた人が次々と参加していただきました。「血圧ふだんから心配でね・・・」「握力測定なんて子供の時以来！」「手の洗い方を実際に教われる機会なんて普段ないでしょ」「食事のことを聞きたくて来ました・・・」「親の身体のことまで心配してくれるなんて嬉しいね」「ポスターをみて来ましたよ」など、沢山の言葉をいただきました。健康管理の大切さを考えるきっかけ作りになれば幸いです。参加された皆さんの笑顔と笑い声、私達の説明に熱心に耳を傾けてくださる姿。利用者・家族・外来受診者やその家族・職員・近隣住民など、終わってみれば 99 人もの方に参加していただいた大イベントになりました。

企画作りから試行錯誤で臨んだイベントも心から楽しむことが出来ました。初のイベントで案内が上手くいかないことなど、反省点は色々ありますが、貴重な経験となりました。多くの皆さんに支えられて無事に貴重な時間を過ごせました。御協力頂き感謝申し上げます。本当にありがとうございました。





平成 27 年度福祉サービス第三者評価結果



1 評価機関名：特定非営利活動法人福祉経営ネットワーク

2 評価結果の概要

(1) 障害児入所支援（旧重症心身障害児施設）（長期入所）

①特に良いと思う点

- ・個別の外出・外泊をはじめ病棟を超えたグループ外出等によって利用者の生活の幅を広げるとともに日常に潤いをもたらすよう取り組んでいる。
- ・感染症対策や骨折予防等、利用者の安全確保に向けた取り組みの強化を図っている。
- ・利用者の高齢化がすすむ中、看護・療育の質の向上を図るため学びと情報共有に取り組み利用者の支援にいかしている。

②さらなる改善が望まれる点

- ・利用者の生活の質の向上のためにボランティア確保に向けた取り組みの充実を図りたい。
- ・重要な案件の決定経緯や支援現場の状況等を全職員で情報共有する取り組みを一層高めていくことが期待される。
- ・独自に家族アンケートを実施する等の積極的な取り組みにより、さらに利用者支援にいかされることを期待したい。

③センターが特に力を入れている取り組み。

- ・家族との交流・連携を図っている。
- ・看取り支援へのニーズが高まり研修の実施や具体的な取り組みをすすめている。
- ・事業所の機能や福祉の専門性をいかした取り組みがある。
- ・在宅支援の充実を目指して、短期入所の受け入れ体制の整備に努めている。
- ・職員の質の向上に取り組んでいる。
- ・職員の専門技術や組織力の向上を目指して研修体系を構築し、着実な育成を目指している。

(2) 生活介護（主たる利用者が重症心身障害者）（通所）

①特に良いと思う点

- ・明るい雰囲気の中で出迎え、利用者がその日 1 日を楽しめるよう職員が協力・連携を図りながら支援にあたっている。
- ・日々のミーティングや短期入所からの受け入れ等情報共有を図り安心・安全な利用が可能となるよう取り組んでいる。
- ・実績状況を定期的に把握しながら着実な計画実行に取り組み、安定した事業運営を目指している。

②さらなる改善が望まれる点

- ・事業所の特徴や概要について理解が進むように独自のパンフレットを作成することが望まれる。
- ・業務手順に立ち返る機会や組織の硬直化防止に向けた取り組みが期待される。
- ・利用者本人の潜在的な意向の把握に努め、地域等との関わりにより、さらに生活の幅を広げていく取り組みを検討されたい。

③センターが特に力を入れている取り組み。

- ・家族との交流・連携を図り支援を行っている
- ・家族の要望に応じ臨時の通所や時間延長等柔軟な対応により在宅支援を支えている。
- ・事業所の機能や福祉の専門性をいかした取り組みがある
- ・在宅支援の充実を目指して、短期入所の受け入れ体制の整備に努めている。
- ・職員の質の向上に取り組んでいる。
- ・職員の専門技術や組織力の向上を目指して研修体系を構築し、着実な育成を目指している。

平成 28 年度看護部院内研修について

看護部の平成 28 年度院内研修を紹介します。センターに入所されている長期利用者の方は、毎年、年齢を重ね医療的ケアが少しずつ複雑になってきています。

また、短期入所の方や医療入院の方も、低年齢となり高度の医療を必要とすることが多くなってきています。このような状況の中で、安全で安心できる療育環境を整備し、質の高い看護・療育の提供ができる職員の育成をめざし、院内教育を企画しています。看護師、保育士、指導員がそれぞれの専門性を活かし、実践を通して成長ができるような内容になっています。

研修名	研修目的	対象	
基礎コース	新任オリエンテーション 基礎コースⅠ	①看護部職員として必要な知識・技術を学び、病棟での業務に活かす。 ②看護（療育）の基礎技術、知識、態度を習得するとともに、重症心身障害児者の特徴を理解し、安全な看護（療育）を提供する。 ③担当職員として助言を受けながら看護（療育）計画に沿って実践する。 ④自己の看護（療育）観を明らかにする。	1 年次 悉皆
	基礎コースⅡ	①担当職員として助言を受けながら利用者の看護（療育）の展開に責任を持つ。 ②根拠に基づいた看護（療育）を実践する。 ③自己の看護（療育）観を深める。	2 年次 悉皆
	基礎コースⅢ	①担当職員として自立し責任ある行動がとれる。 ②根拠に基づいた知識技術とともに、個別的看護（療育）の実践ができる。 ③自己の看護（療育）観を確率する。	3 年次 悉皆
一般コース	プリセプター	プリセプターの役割を理解し、後輩指導に活かす。	職歴 3 年目以降
	在宅支援	重症心身障害児者の在宅での生活を知り、在宅支援に活かす。	職歴 4 年目以降
	問題解決	問題解決のプロセスを通し課題抽出、解決能力を身につける。	
	看護療育記録	看護診断援助計画するための知識を深める。	
	職業倫理	専門職として身につけるべき倫理的態度、倫理的問題と倫理的ジレンマへの対応能力を身につける。	
	呼吸器装着者の看護	人工呼吸器の管理、装着利用者への看護を学ぶ。	
	看護・療育研究	療育上の疑問や問題を科学的方法により検証し、療育の質の向上を図る。	
	家族支援	利用者家族を支える支援についての知識を学ぶ。	
	看取りの看護	「看取り」に関する知識を学ぶ。	
	てんかんの基礎知識	てんかん発作についての基礎知識を学ぶ。	
専門コースⅠ	摂食嚥下障害看護	摂食嚥下障害看護の指導的役割を果たす。	基礎コース修了者 (看護師)
	呼吸管理	呼吸管理の指導的役割を果たす。	
専門コースⅡ	療育活動	ムーブメント活動における指導的役割を果たす。	基礎コース修了者 (支援科)
管理コース	主任研修	主任としての役割を自覚し、課題に取り組む。	主任
	係長研修	管理について学び、職員指導に活かす。	係長

平成 28 年度 日本重症心身障害福祉協会 全国施設協議会に参加して

事務長 獅子野 秀美

5 月 19 日（木）から二日間、全国の重症心身障害児者施設の代表者が大阪国際交流センターに集い、標記の会が催されました。当センターからの参加者は、倉田院長、桑原看護部長、私の 3 人です。

初日は、厚生労働省の田中障害福祉専門官による行政説明に続き、当福祉協会の木実谷理事長が「今後の当協会の課題」と題して、基調報告をされました。理事長は、我々は公益社団法人になったのだから、もっと大幅に在宅の重症児者を施設に受け入れていかないと、国民の理解は得られないこと、また、「児者一貫した支援」は、法律上に根拠がなく、いつまでも保障されたものではないこと、とりわけ 18 歳以上の「療養介護」が児への支援とどこが違うかを、厚生労働省にもっと明確に説明していかなければ、今後の診療報酬改定や介護給付費改定において不利になる恐れがあることなどを、真情を吐露して、強く訴えられました。

熊本地震を受けての緊急協議「災害とどう向き合うか」では、くまもと江津湖療育医療センターの興梠施設長から、緊急物資など全国からの真心の支援に感謝の言葉がありました。佐賀整肢学園の 15 人の職員が、あるだけの水ポリタンクをマイクロバス 2 台に満載し本震があった 4 月 16 日（土）夕刻、江津湖センターに届けたことをはじめ、近隣の中国地区、九州北部・南部地区を中心に当協会が組織的対応を行ったことが報告されました。

二日目は、「これからの挑戦」をテーマにシンポジウムが行われました。シンポジストは 6 人。一つのベッドを 5 人の重症児者で 1 か月ずつシェアしあう「入院診療型（福祉施策の短期入所とは異なる）ローリングベッドの実践」（江津湖 興梠施設長）、「重症心身障害者に特化したグループホームの課題」（久山療育園 宮崎センター長）、「病院が中心となったシームレスな重症児在宅医療を目指して」（愛仁会高槻病院 南副院長）など、大変に興味深い意欲的な報告で、会場のメンバーと活発な意見交換が行われました。

参加した私たちは、既に施設入所している人はもちろんのこと、地域でご家族と暮らしておられる多くの重症児者のために、今以上の力で日々の仕事をしていきたいとの決意を深め、帰宅の途につきました。



多摩地区施設交流会 2016

通所 奥野 智則



5月20日(金)、立川市泉市民体育館で多摩地区施設交流会が行われ、当センター通所から7名の利用者さんが参加しました。病棟にいる皆さんは「多摩地区施設交流会って何…?」という感じだと思うので簡単に説明します。多摩地区施設交流会とは、多摩地区にある17の通所施設から、総勢150名程の利用者さんが集まり、レクリエーションを通して交流を深める多摩地区通所施設の一大イベントのことを言います。

それでは当日の様子を説明します。まずは通所バスに乗って体育館へ移動。今日が通所バス

初体験のSさんはドキドキわくわくのドライブでしたね。開会式の後には各グループで自己紹介をしました。皆さん、自分のことをしっかりアピールできましたか? そして、待ちに待ったレクリエーション!

今年もグループ対抗戦で行い、熱いバトルが展開されました。まずは「名刺でじゃんけんぽん」。このゲームはその名の通り、10名の利用者さんと名刺交換をしながらじゃんけんをし、勝った数を競うゲームです。尊敬する頑固おやじに勝利の報告をするために頑張ったTさん、いい報告はできましたか?

イケメン対決をしたAさん、結果は引き分けでしたね。来年はリベンジしましょうね。次は「フォークダンス」を楽しみました。しかし、ただのフォークダンスではなく、曲の途中で他のグループの利用者さんとペットボトルマラカスを交換し、最後に指定された色のキャップがついたペットボトルマラカスを持っている数の多さを競うゲームです。曲に合わせて素敵な歌声を披露したKさん、勝利のマラカスを手に入れることはできましたか? コロコロと転がっていくマラカスを見て大笑いしていたKさんの笑顔、最高でしたよ! そして、今年も日の出町のゆるキャラ「ひのでちゃん」が登場! Eテレ大好きなIさん、ひのでちゃんにGoodなリアクション、ありがとうございました。そして、最後は実行委員による余興。今年もスマップのjoyという曲に合わせてノリノリのダンスを披露しました。実行委員以上にノリノリで盛り上げてくれたWさん、いつも感謝しております! そんな楽しい一時もあっという間に終わりを迎え、閉会式。今年の優勝グループには当センターの利用者さんはいませんが、体調を崩して泣く泣く欠席した勝負師のKさんがいれば…と思うと残念でなりません。来年はぜひ参加してくださいね!

優勝はできなかったけど、レクリエーションを楽しんだり、学校時代の友達や懐かしい職員に会ったり、たくさんの方と交流を深めることができました。来年は当センターから優勝者を出し、帰りのバスで優勝パレードをしましょうね!

ダンスパーティ 2016

リハビリテーション科 山崎 理恵



今年もリハビリテーション科主催のダンスパーティーを開催しました。出演順に紹介していきます。最初は、カルチャークラブの手芸メンバーによるダンス。手芸をしながら話す好きな歌手の話題から、キャンディーズの「暑中お見舞い申し上げます」を選び、アイドル風のシフォンスカートの衣装で踊りました。続いては月花グループの皆さんによる、スコットランド民謡「Road to the Isles」でした。軽快なリズムに合わせた車椅子移動と、タンバリンでの手合わせが印象的でした。3 番目はカルチャークラブのメンバーと職員合作の演目でした。ズートピアの曲でシフォンの布を振りながらのダンスは元気いっぱいでしたね。その次は、虹グループの「One Love」。レゲエのゆったりした踊りと、大きなパラシュートをふわふわ上下させる演出で、まるで夏のカリブ海のような演出でした。5 番目の演目はトマトグループによる Superfly の「White Light」でした。2 拍子の力強い曲調に合わせて、かっこよく踊りました。白銀や金、ブルーの衣装もかっこよかったですね。最後は、カルチャークラブのエイサーでした。エイサー頭巾をかぶった出演者が登場すると、会場は一気に沖縄の雰囲気になりました。三線の生演奏で始まった「島人ぬ宝」、最後は観客の皆さんと一緒に輪に加わって楽しく踊りました。今年は、懐メロにフォークダンス、J-POP、レゲエ、島唄とバラエティー豊かな内容でした。来年もどうぞお楽しみに！

生け花教室開催

リハビリテーション科 柏山 むつ子

5 月 24 日に生け花教室を行いました。リハビリテーション科が主催する生け花教室は、毎年 5 月に実施しており今年で 12 回目となります。毎年この時期にエントランスを彩る生け花展、皆様はご覧になりましたか？ユリ、シャクヤク、バラ、ガーベラ、ギガンジウムなど今年は例年にも増して大きなお花も多く、豪華な花々で好評でした。

生け花教室に参加された利用者の方々は、会場に入ると綺麗なお花の束を見てテンションもあがり、早速それぞれ好みのお花や花器を選んで作業に取りかかっていました。「どの花を中心にしようか？」「葉っぱはこっちがいいかな？」など利用者と職員が相談しながら行い、素晴らしい作品が完成しました。

出来上がった作品には作者が題名を付けます。作品を見つめながら題名をつけるのもみんな一生懸命です。題名は「そうだ、京都へ行こう！」「シャボン玉ホリデー」など、どれもユニークで楽しいですね。綺麗に生けられた花たちに、心が和んだ一週間でした。



食のバリアフリーを求めて…

『東大和市を食のバリアフリー先進都市にしたい』という、大それたスローガンを掲げた取り組みを始めて 3 年が経過しました。毎日栄養科職員によって提供される食事は、一人一人の摂食嚥下機能に合わせた食べやすくおいしい食事で、感謝の一言に尽きます。ですが、時には外食して非日常的な空間で、ゆっくりと食事を味わってほしい、一品一品運ばれてくるコース料理も体験してほしいと考えたのです。現在、利用者さんの摂食嚥下機能は高齢化と共に徐々に低下し、硬さや粒の大きさに配慮が必要な「嚥下調整食（以下、調整食）」の方がとても多くなっています。都内のホテルには調整食を提供しているレストランもありますが、遠方では多くの利用者さんに体験してもらえません。そこで思いついたのが、近くのレストランに協力依頼して作ってもらうという試みで、その意気込みをこのスローガンに込めました。

早速、玉川上水駅前にある 2 件のレストランに出向きました。イタリアンレストランのオーナーシェフは福祉分野との関わりがある方で、ランチメニューのリゾットが調整食に適していたこともあり、二つ返事をいただきました。食事は既に 6 回を数え、今では見事な前菜を用意してくれます。(写真①)



写真① 前菜（左が通常のもの・右が調整食）

一方、フレンチレストランのオーナーシェフは、調整食の経験がないことやメイン料理である肉や魚を調整食にするには時間がかかる、といった理由から交渉は難航しました。それでも貸切ならば調整食の調理に集中できるので、とっていただけました。利用者さんは 4 つの病棟と通所から 1 名ずつ、付添職員も 1 名ずつで計 10 名。貸切に必要な 15 名には届きません。そこで、利用者さんと病棟以外の職員が顔を合わせる食事会として開催を呼び掛けたところ、院長はじめ多くの部署の職員が応えてくださり、貸切食事会が実現しました。事前準備としてランチタイムにうかがい、素材や調理方法について細かな依頼をしました。前菜の葉物は温野菜に、シーフードグラタンの牡蠣や海老、帆立は、身がほぐれやすい白身魚に、といった具合です。2 回の食事会を経て、調整食の出来は着実に向上しています。(写真②)



写真② 前菜（左が通常のもの・右が調整食）

グラタン（左が通常のもの・右が調整食）

お互いの紹介から始まる食事会は、約 1 時間半かけてコース料理を味わいます。いつも以上におしゃべりが滑らかになる方、「早く次の料理を」と目で訴える方、旺盛な食べっぷりで美味しさを表現される方…利用者さんの反応は様々ですが、豊かな時間が流れています。

(QOL 向上委員会指導員：高井直人 摂食嚥下障害看護認定看護師：川原ゆかり)